令和５年度　第１回城陽市東部丘陵整備委員会　議事録（要旨）

●日時：令和５年９月５日（火）午前１０時００分～１２時００分
●場所：城陽市役所　西庁舎　４階４０１・４０２会議室

1. 開会

2. 市長あいさつ

3. 委員紹介（委員名簿参照）

4. 委員長及び副委員長の選出
委 員 長：村橋委員（立命館大学総合科学技術研究機構上席研究員）
副委員長：中川委員（京都大学名誉教授）

5. 議事
（１） 先行整備地区の進捗報告について
市より東部丘陵地先行整備地区の進捗について報告

◎意見
委員：新名神高速道路は令和５年度供用開始が延期となり、令和６年度となったが、順調に進んでいるのか。様々な要因があり、延期となったと思うが、原因は解消できたのか。
事務局：遅れた内容については、解消できたもの、解消できたが予定よりも時間がかかったものなど様々だと聞いている。
ネクスコからは、令和６年度の供用開始を目指して鋭意進めていると伺っており、現状では令和６年度の供用開始予定と認識している。
委員： 昨日も宇都宮で３時間に 100mm という雨が降るなど、災害の規模が変わってきている。基準に即して調整池を設置されると思うが、３時間で 100mm の雨に耐えられるのか。
事務局：雨の降り方にもよるところがあるが、京都府の条例に基づく基準により整備を進めており、現在その規格で設置した池があふれたというようなことはないため、大丈夫であると考えている。
緑地の形成により地域として保水力を高めたり、アスファルト舗装を透過性のものを使用して浸透させるなど、雨水の流出抑制を図りたい。
委員： P13 のスライドにある構造物（ボックスカルバート）について説明願いたい。
事務局：高速道路の下を、河川と市道が通るための構造物で、写真にあるとおり、２つ穴があり、左側が長谷川、右側が市道となる。

委員：青谷地区は次世代型物流拠点ということだが、具体的に「次世代」とはどのようなものを想定しているのか。

事務局：青谷地区に建設予定の基幹物流施設は、将来的に自動運転の利用などを想定されており、現在はまだ具体的な話が発表されていないが、青谷地区のほか、中京・関東圏でも同様の施設を建設し、その間を自動運転車両が行き来することになる。こういった新たなシステムを導入することから「次世代」と位置付けている。

委員：長池地区のアウトレットは利用客が多く来訪する施設である。先ほど中川先生から話があった新名神高速道路の供用時期との兼ね合いもあるだろうが、そろそろ利用の状況等が想定され、交通や環境面の課題が見えてくる頃ではないか。
議会や市民から、意見などが出ていないか。また、市はどのように考えているか。

事務局：周辺交通については、様々なご意見をいただいている。市としても、東部丘陵線をはじめ、道路交通網の整理を進め、渋滞対策を進めるとともに、今後、交通対策委員会の設置を検討しており、開業までは、事業者から提示される情報を基に事前対策を講じるとともに、開業後も想定外の交通問題が発生することが予想されるので、開業後の交通対策についても取り組める組織を立ち上げたいと考えている。

委員：先行整備青谷地区のパース図では、基幹物流施設とされている施設をはじめ、非常に大きな建築物が予定されているが、万が一火災が発生した場合の対応などはどのように考えているのか。

事務局：このような大きな施設であり、防災については重要な検討事項と認識している。現在、開発事業者と消防の間で協議を行い、対策を期するべく進められているところである。

（２） 東部丘陵地中間エリア整備で目指す未来について

市より東部丘陵地中間エリア整備の基本コンセプト及び今後の取組について報告。

◎意見

委員：国交省が主催するサウンディングは、社会保障費の増加に伴い、相対的に社会資本整備費が減少していること、また、各種インフラの老朽化等により機能更新・維持管理に費用がかかることから、民間のノウハウ、資金力、マネジメント能力を活用する方向を目指している。

委員：サウンディングは、城陽市にこのような開発の場があるということを、民間企業者へアピールするのに有効な場ではあるが、焦点を絞り込んで実施していくべきではないか。立地、ハード、ソフトなど幅広い観点で意見を聞くのはよいが、市のまちづくりの方向性とずれないように、取り組んでいただきたい。

委員：先行整備であるアウトレットモールは施設内に人を抱え込む性質の施設で、また基幹物流施設は人を集客する施設ではない、そこで中間エリア開発については先行整備との連携を考えるのか、また単独で考えるのか。

委員：医工連携について誘致すればいいのではないか、現状では京都市は無論、学研都市内のクラ

スター地区にも適した土地が少ないことから中間エリアは適している。

委員：誘致にあたり、減税免税補助金等ソフト面の対策が重要で企業はそこを見ている。

委員：土地利用について、一部地域については実証実験エリアとする考え方もある。
中間エリアは広大なので段階的開発にならざるを得ない。そのため、実証実験的に一部については時期よって開発方針を柔軟に考えてはどうか。

委員:広域消防など、より広域的な取組を実施する中どう進めるかの、広域的な仕組み作りが必要。

委員：治水に関しては、府条例に基づくものということだが、更に踏み込み、基準を越えてもある程度は耐えられるような規模で考えてもよいのではないか。

委員：埋戻しには天ケ瀬ダムの浚渫土砂の活用など国の取組にも注視が必要。

委員:新名神高速道路の開通を見込み、城陽市においてもアウトレットなどの開発が進んでいるが、他の場所でも同じように開発が検討されるであろうことから、（P4 の）課題の 1 点目を認識されていることはよいことだと思う。

委員：地権者、事業者、近隣住民など関係者と言っても関わり方にレベルはあるが、近隣住民の応援が無いと開発は成功しない。

委員：基準どおりの防災設備ではなくもう一歩踏み込んだ防災対策を検討してもらいたい。

委員：サウンディングにあたって、原案では市として何を選ぼうとするのか、また企業者は何を提案したらいいのか抽象的なため判りにくい。市としてメインとなるテーマをもう少し絞り込んではどうか。

委員：アウトレットでは買い物ができるとはいえ、子供の遊び場が必要ではないか。

委員：また、京都と奈良へ移動しやすいため、緑の確保・森林を活かしたグランピングの誘致も、古都巡りの宿泊地として有効ではないか。

委員：地域住民の理解が必要であり、子供の遊び場などを、理解に資するものの立地が必要。

委員：東部丘陵地はまさに 21 世紀の街のモデルとなり得るため、SDG s を前面に出しアピールをする必要があるのではないか。緑の回復はまさに SDGs に合致する。

委員：文化について議論を深め、アートや文化を取り込む必要があるのではないか。

〇先行事例としては札幌ごみ処理跡地にアートを主題とした公園を整備し観光スポットとして成功している。（モエレ沼公園）

〇国外では、英国ウェールズで元採掘場後に植物園を中心とした複合施設を整備し研究拠点や観光地として成功している（エデンプロジェクト）

委員：ワークショップを開催し、市民意見の吸い上げも重要であるので、時間が許すのであれば、実施について検討いただきたい。

委員：サウンディングについては賛成であり、コンセプトについても JSIP という近未来を意識したよいものと思う。

委員：市長の話にあったように、ベッドタウンから企業誘致に開発方針を転換するためには、基本的にインフラの整備が重要である、水道、電気、ガス、道路などの基盤施設を充実が必要であり、共同溝の設置を含め国、府、市としての取組みが必要であると感じた。市長が話されたニュー城陽を発信してもらいたい。

委員：中間エリアの開発については、業界としても前向きに取り組みたいが、まだ事業を継続しているところもある。新名神高速道路の開通など、地の利だけでなく、時の利も活かす必要があることは認識している。

委員：インフラ整備は企業者に任せるのではなく、行政も責任をもって整備してほしい。

委員：具体化にあたりワーキンググループの設置もいいのではないか。

委員：京都府では、城陽市の城南団地にて、府営住宅初の木造化での建て替えを検討している。

委員：１からの開発なので、木造化や規制緩和などを活用してほしい。

委員：京都府として一定企業誘致への支援制度は整備しており、当然中間エリアに進出される企業も要件が整えば適応できると考える。

以上